

しょうがい者ふくしについてかんがえたこと

秦野市立本町小学校 三年 児玉らいむ

私のお母さんは、しょうがい者ふくしにかかわる仕事をしています。しょうがいをもっている人が地いきで生活しやすくするために、毎日とてもいそがしくはたらいっています。

しかし私は、お母さんに仕事をほしくないな、と思っていました。お母さんは夏休みも仕事に行ってしまうので、私はもっとお母さんといっしょに遊びたいな、と思っていました。

夜ご飯の時、私は学校で教えてもらった手話をしていました。手話は指の動きがとてもむずかしくて、おぼえるのも大へんで、これで会話できるなんてすごいなあと思っていました。手話は耳の聞こえない人と会話するのに大事な方法です。私の手話を見たお母さんは、「手話はとてもむずかしいね。耳の聞こえない人と会話をする時は、手話ができなくても、お話している口の動きを見たり、顔の表情をかくにんしたり、紙に文字をかいたりして会話ができたりするのよ」と教えてくれました。そして、私がしょうがいをもつ人のくらしに少しきょうみをもったことをうれしく思ったようで、お母さんが知っている手話を教えてくれ、今お母さんがしている仕事についてお話をしました。

仕事の話はむずかしくて私にはよくわからないこともあったけど、お母さんはしょうがいをもつ人が地いきで生活しやすいように、ということをめざして一生けんめいがんばっているんだな、ということがわかりました。だれかのためにがんばれるのはすごいなあ、と思います。そんなふうに住事をがんばっているお母さんもいいなあ、と思いました。

私の学校にもしょうがいをもっているお友だちがいます。そのお友だちが楽しくすごせるように私も力になりたいと思います。